

1. 説明会の目的および案内を配布した範囲は？

今回の説明の場は、陥没箇所周辺や原因究明の調査箇所周辺にお住いの方の不安を少しでも和らげるために設けさせて頂いたものです。陥没箇所周辺のシールドマシン影響範囲に入る約1,000戸に説明会開催のチラシを配布させていただきました。

2. 今回の陥没事象および空洞はトンネル工事が原因なのでしょうか

現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、原因および工事との因果関係を究明しているところです。陥没箇所周辺や原因究明の調査箇所周辺にお住いの方々の不安な気持ちを一刻も早く取り除くことができるよう、早急に原因究明を進めてまいります。

3. 新たに発見された空洞について、11月2日の発見から2日後に公表されていますが、住民への周知が遅かったのではないのでしょうか

11月2日に、陥没箇所から約40m北にて、ボーリング調査中に、地下約5mのところから下に厚さ約3mの空洞が存在する可能性が確認され、簡易調査による空洞範囲の特定を試みましたが、地表面の地盤が固く調査が難航しました。

そのため、詳細な調査の準備を行い、翌3日に、レーザースキャナー等による調査を行ったところ、長さ約30m、幅約4m、厚さ約3mの空洞が確認され、初めて、全体像が把握可能となったところです。

その後、直ちに地質等の専門家に対し、安全性の確認と今後の対応について、技術的見地から、ご相談をしたところ、「空洞の状況・大きさから、直ちに地表面に変状を及ぼすものではなく、緊急的な対応は必要ないが、空洞は早期に充填することが望ましい」との見解が示されたことを踏まえ、翌4日午前中に、周辺住民への個別説明を行った後、公表に至ったところです。

4. 新しく見つかった空洞の埋め戻し作業の完了目途はいつになりますか

11月3日に確認された地中の空洞について、流動化処理土等を約600m³充填し、11月24日に充填作業が完了しました。

11月21日に確認された地中の空洞について、流動化処理土等を約200m³充填し、12月3日に充填作業が完了しました。

5. 現在どのような調査を実施しているのですか。

今回の陥没事象を受け、事業者において、「原因究明のための調査」と「これまで掘り進めてきた区間の調査」を行ってまいります。

現在、現地において、

「原因究明のための調査」として、陥没箇所及び周辺道路において、ボーリング調査、地下水調査、安全安心の確保のために路面空洞調査、地歴・文献・施工データの再確認等を実施するとともに、地表面の監視を重点的に行っているところです。

また、「これまで掘り進めてきた区間の調査」として、現在、陥没箇所周辺以外の地表面についても安全の確認のために、関係機関との協議が整い次第、常時監視を行うとともに路面空洞調査等を実施してまいります。

陥没箇所周辺や原因究明の調査箇所にお住まいの方々の不安な気持ちを一刻も早く取り除くことができるよう、早急に調査を進めてまいります。

6. 陥没事象や空洞に地下水の影響があるのでしょうか

現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、原因および工事との因果関係を究明しているところです。地下水の水位、流向、流速等の調査を行い、その影響についても確認してまいります。

7. 調査範囲が狭いのではないのでしょうか

現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、原因および工事との因果関係を究明しているところであり、陥没箇所周辺の調査を集中的に行っております。調査の進捗及び結果や「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」における検討等を踏まえつつ、今後とも適切に必要な調査を実施してまいります。

8. 有識者委員会の委員は、外環の計画から携わっているメンバーであり、中立性が確保されるのか心配です

今回の事象を受けまして、これまでも中立的な立場で外環事業に対する専門的、技術的な助言をいただいている「東京外環トンネル施工等検討委員会」から、有識者のみで構成する「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」を立ち上げ、新たに2名の有識者に加わっていただき検討を進めることとしています。

なお、委員会規約により、委員に対しては、委員会の設置目的に照らし、公正中立な立場から審議等に当たっていただいております。

9. 家の下など、他に空洞がないか心配している。空洞調査は実施されるのでしょうか。

空洞の不安がありましたらフリーダイヤル等にご相談ください。

※NEXCO 東日本 東京外環工事事務所 Tel 0120-861-305〔平日 9:00~17:30〕

NEXCO 中日本 東京工事事務所 Tel 0120-016-285〔平日 9:00~17:30〕

なお、現地において地表面の監視を強化しており、現在、変状等は確認されておられません。

陥没箇所周辺の路面空洞調査は実施しており、とりまとめを行っているところです。これまで掘進してきた区間における路面空洞調査についても関係機関との協議が整い次第実施してまいります。

現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、今回の陥没事象について原因および工事との因果関係を究明しているところであり、その結果を踏まえた上で、必要に応じて措置を講じていきたいと考えております。

10. 事前調査が不足していたのではないですか。トンネル直上にある事業者用地でも調査するべきだったのではないですか。

事前調査として、平均すると約200mに1本の間隔でボーリング調査を実施するとともに物理探査を実施し、ボーリング調査地点間の地盤急変部が存在しないことを確認しております。

現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、原因および工事との因果関係を究明しているところであり、その結果を踏まえた上で、必要に応じて措置を講じていきたいと考えております。

11. 陥没箇所周辺はトンネル掘進時に騒音・振動・低周波を感じましたが、その原因および陥没事象への影響はどのように考えていますか。

これまで、陥没箇所周辺や原因究明の調査箇所周辺にお住いの方々より、振動などに関する問合せをいただいております。

騒音・振動・低周波が地上まで伝播した要因や陥没事象への影響等については、現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、今回の陥没事象について原因および工事との因果関係を究明しているところです。

12. 陥没箇所周辺は掘進が難しい区間であったと聞いておりますが、何が原因でしょうか。

陥没箇所周辺の地盤は礫層混じりの地層となっており、シールドマシン始動時にカッターに負荷がかかる事象が発生しております。現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、原因および工事との因果関係を究明しているところです。

13. 掘進データや地表面の計測データなどについては公表してください。

今回の陥没事象について原因および工事との因果関係を究明しているところであり、因果関係を特定するデータについては、有識者委員会にて確認を行っていき、適切に公開してまいります。

14. 次回の有識者委員会の開催はいつ頃を予定されていますか

地質調査を12月初旬までに完了させるべく鋭意進めており、次回の有識者委員会については、調査完了後直ちに開催する予定です。陥没箇所周辺や原因究明の調査箇所にお住いの方々の不安な気持ちを一刻も早く取り除くことができるよう、早急に原因究明を進めてまいります。

なお、新たな変状等が発生した場合には、速やかに有識者委員会を開催します。

15. 次回の住民説明会はいつ頃開催するのでしょうか

現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、原因および工事との因果関係を究明しているところです。その結果を踏まえ、新しく説明できる内容が出てきた段階で、できるだけ早く開催させていただく予定です。

16. 原因究明がなされる前にシールドトンネルの掘進が再開することはあるのでしょうか

原因究明がなされるまで、再開することはありません。

まずは、現在、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」に確認頂きながら、原因および工事との因果関係を究明しているところです。掘進の再開を含めた今後の進め方については有識者委員会の見解を踏まえ適切に対応してまいります。

17. 陥没箇所の近隣家屋について、家屋に損傷が生じていないか事業者が1件ずつ調査をしてもらえませんか

陥没箇所の近隣家屋の調査をさせていただきます。何かご相談があればフリーダイヤル等にて個別に対応させていただきます。

※NEXCO 東日本 東京外環工事事務所 Tel 0120-861-305 [平日 9:00~17:30]

NEXCO 中日本 東京工事事務所 Tel 0120-016-285 [平日 9:00~17:30]

18. トンネル工事が陥没、空洞の原因で家屋に損傷があった場合、補償はしていただけるのでしょうか

工事に起因する建物の損害が確認され、工事との因果関係が認められる場合には、必要な家屋調査を行い原状回復に要する費用を負担するなど、適切に対応させていただきます。

また、工事中であっても、日常生活に支障をきたすような損害の場合は、応急措置をさせていただきますので、お申し出ください。

19. シールドマシンの保全措置として行っているカッター回転は継続的に実施されるのでしょうか

シールドマシン停止中における、チャンバー内の圧力を適正に保つために、定期的にカッターを回転させて土砂の攪拌を継続的に実施いたします。週3回、一日に10分程度回転を行います。この際、掘進を進めることはございません

20. 「トンネル工事の安全・安心確保の取組み」にある関係者への連絡や避難の呼びかけは適切に行われたのですか

陥没事象発生時には、事業者・工事関係者より、自治体、警察、消防、埋設物管理者へ適切に連絡をしております。また、避難が必要となる場合、警戒車両の拡声器および各戸の訪問により、周辺の皆さまへお知らせすることとしておりましたが、今回は範囲が限定的であったことから各戸に避難の声掛けをさせていただきました。

今回の対応の振返りを行い、より良い対応が出来るよう必要に応じて改善を図ってまいります。